


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 田村市立大越小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	田村市立大越小学校 第5学年 29名 第6学年 33名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ハンディキャップを乗り越えて強く生きているスポーツ選手との交流を通して、互いに尊重し合うことの大切さ、誰もが安心して生きていける社会の実現について考え、よりよい社会を構築する一員としての心構えを持つことができる。
5 取組内容	<p>I アンケートの実施</p> <p>○ 事業前と終了後にアンケートを実施し、児童の変容をとらえ、オリンピック・パラリンピックに向けた意欲を高める指導を行った。</p> <p>II パラリンピック出場選手との交流</p> <p>1 パラリンピックに出場した池田樹生選手との交流を通し、スポーツ義足を体験し、また同選手との人となりにも触れ、障がいの有無にかかわらず自己を高めていこうとする意欲を高めることができた。</p>  <p>2 車椅子バスケット日本代表キャプテン豊島英選手の映像を見たり、車椅子に乗ったり座ったままのパスやシュートをしたりして、その難しさやそこに身を置いている選手のすごさなどを体験することができた。</p>

	
<p>6 主な成果</p>	<p>I 2つの授業後の児童の様子や感想から</p> <p>(1) 障がい者スポーツの難しさやそれを支える技術、ひいてはバリアフリーの社会の実現にも思いめぐらすことができた。</p> <p>(2) 障がい者スポーツの難しさやそれに取り組む選手のすごさなどが実感できた。</p> <p>II アンケートの分析から</p> <p>※ 7月（事業実施前）と1月（事業実施後）にアンケートを行い、結果を分析した。</p> <p>(1) 1月の結果は、すべての質問で7月より上位にシフトしている。授業を通して、オリンピック・パラリンピックに対して参加の意欲が高まったといえる。</p> <p>(2) 社会参加への意欲やお年寄りや障がいのある方、異文化に対してそれを受け入れ、よりよく交流したり調べたりしようとする意欲も高まった。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>本校は特別支援学級設置校であり、通常学級との交流も好ましい形で行われている。さらには会議や職員研修でも特別支援教育を学び、全職員が全校児童に係わる校風がある。その中で等しく人権を尊重して指導に当たろうとする本校の良さを生かし、障がいを持ちながらも目標を持って努力しているスポーツ従事者との交流を重視した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>1 高まってきた意欲や実践力を、今後も維持・発展させていくことが課題となる。学校教育の様々な場面でオリンピック・パラリンピックの理念を踏まえた、現実の自他を受け入れ、認め、多くの人に感謝し、互いに手を携えながら地道な努力を続けていく児童の育成を目指し、指導を続けていきたい。</p> <p>2 どのような人材がいるのか、つてをたどるだけでは難しい面があった。オリンピック・パラリンピック出場者ばかりでなく、それらを支えた多くの人々（聖火ランナー、トーチ制作、監督・コーチ、医療・栄養等）の資料があれば、目処がつけやすい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>1 今年度、都合で交流できなかった豊島英選手とは、パラリンピック後に何らかの形で交流したい。</p> <p>2 特別に指導のための時間を設定するのではなく、各教科・領域の学習の中にオリンピック・パラリンピックの理念や歴史、参加国について学ぶ機会が設定できるように計画を作りたい。</p>